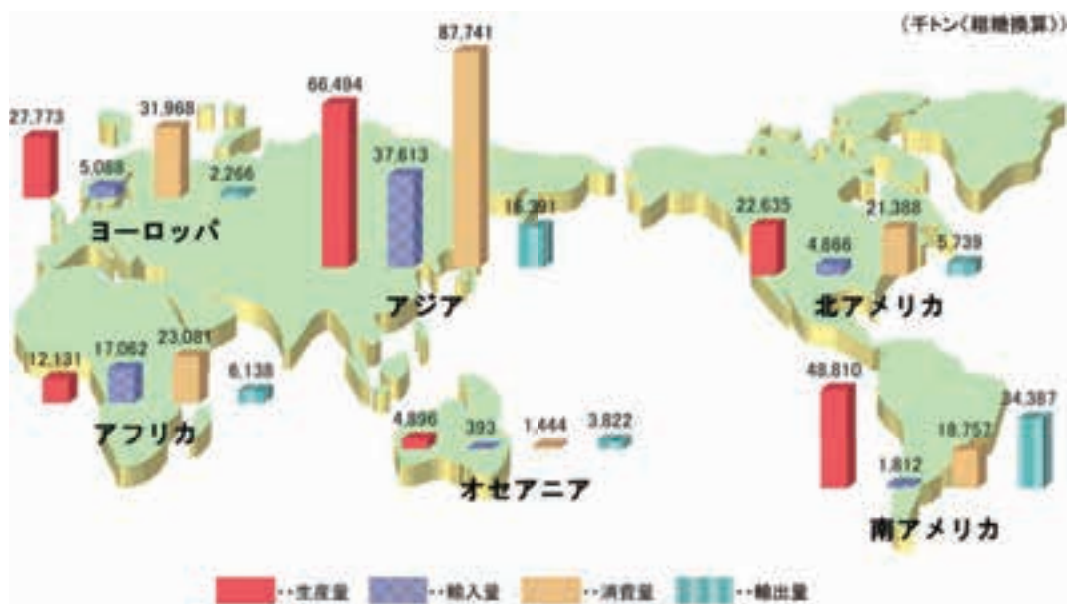


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2021年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,628	65,934	180,718	67,687	81,466	45.1
2018/19	81,466	186,584	61,355	183,607	61,827	83,972	45.7
2019/20	83,972	181,926	69,315	181,419	71,216	82,578	45.5
2020/21 (2020年12月予測)	83,524	184,096	65,695	182,990	69,028	81,297	44.4
2020/21 (2021年3月予測)	82,578	182,739	66,833	184,380	68,743	79,028	42.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

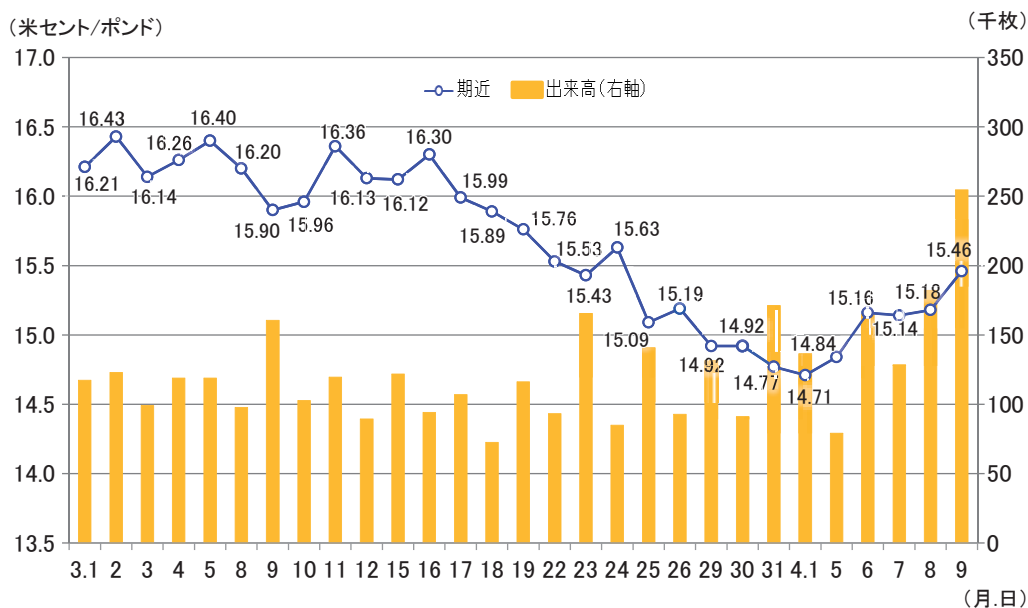
注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（3/1～4/9）

～3月後半は、新型コロナウイルス感染症の拡大などを受けて下落傾向で推移～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年3月の推移を見ると（5月限）、1日は、1ポンド当たり16.21セント^(注1)の値を付けた。3日は、インドの2月末時点の砂糖生産量が前年同期から増加したと発表されたことで、同16.14セントまで値を下げた。5日は、原油価格の上昇に伴い同16.40セントまで値を上げた^(注2)。8日以降は原油価格とリアル相場^{がつきり}の下落に引きずられ、9日は同15.90セントとおおよそ1カ月ぶりに16セントを割り込んだ^(注3)。12日は、ブラジル中南部地域の2月末時点の砂糖生産量が、前年同期から大幅に増加した影響で、同16.13セントまで値を下げた。16日は、ブラジルの主要港で船積み作業が遅延している状況を受けて、同16.30セントまで上昇した。17日以降は、インド産砂糖の増産報道や、欧州における新型コロナウイ

ルス感染症（COVID-19）の再拡大による経済の停滞懸念などによって下落が止まらず、23日は同15.43セントの値を付けた。24日は、原油価格の上昇に伴い同15.63セントまで値を戻したものの、25日は、ブラジル産砂糖生産量の増加やリアル安などの影響を受けて、同15.09セントと急落した。29日以降は世界的な砂糖の供給過剰感やブラジルにおけるCOVID-19の拡大などによって下落が続く、31日は同14.77セントの値を付けた。

4月1日は、前月からの流れが継続し、同14.71セントと下落したが、6日は、原油価格の上昇とリアル高を受けて同15.16セントまで上昇した。9日は、ブラジルにおける1月～3月のエタノール輸出量が過去5年間で最多を記録したとの報道を受け、引き続きエタノールの増産が継続するとの思惑が

ら、同15.46セントまで値を上げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要上昇により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が

減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が上昇すると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2021年4月時点予測)

本稿中の為替レートは2021年3月末日TTS相場の値であり、1ブラジルレアル=21.18円である。

ブラジル

2021/22年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：860万ha(前年度比0.5%減)
生産量：6億3000万トン(同4.1%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：4189万トン(同6.2%減)
輸出量：3056万トン(同9.5%減)

2021/22年度の砂糖生産量および輸出量は、かなりの程度減少する見込み

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)による2021年4月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2021/22年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、860万ヘクタール(前年度比0.5%減)とわずかに減少すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、生育期間における降雨量の減少による単収の低下が影響し、6億3000万トン(同4.1%減)とやや減少すると見込まれる。砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるバイオエタノール需要の不透明感などを背景に、前年度に引き続き多くの製糖業者が砂糖の生産割合を高めると予想されるものの、原料の減産や、1トン当たりの平均回収糖分(ATR)が

平年並みに落ち着くことを受けて、4189万トン(粗糖換算(以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同6.2%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産に伴い3056万トン(同9.5%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。

3月中旬の砂糖価格、前年度から大幅に上昇

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)は3月23日、国内のサトウキビ需給や砂糖価格などに関する月次レポートを公表した。これによると、サンパウロ州の製糖工場における3月15日~19日の砂糖^(注1)の週平均価格は100キログラム当たり213.6レアル(4524円、前年度比31.3%高、前週比0.5%安)と、前年度から大幅に上昇した。また、主要輸出港である同州サントス港における砂糖^(注2)

の週平均価格は、同207.7リアル（4399円、同29.5%高、同1.1%安）となり、製糖工場での価格と同様の動きを見せた。

3月に入り、中南部地域の一部の製糖工場では2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫が進む中、収穫が本格化する4月には、多くの製糖工場ですトウキビの圧搾が開始されると見込まれている。同国ではリアル安や砂糖の国際価格の回復な

どによる砂糖輸出量増加の影響を受け、足元の国内供給量は限られると見込まれるが、工場が本格稼働する同年度第1四半期には、砂糖の増産により国内価格は下落するものと予想されている。

（注1）ICUMSA（国際砂糖分析法統一委員会）色価130～180の砂糖。

（注2）同色価最大150の砂糖。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

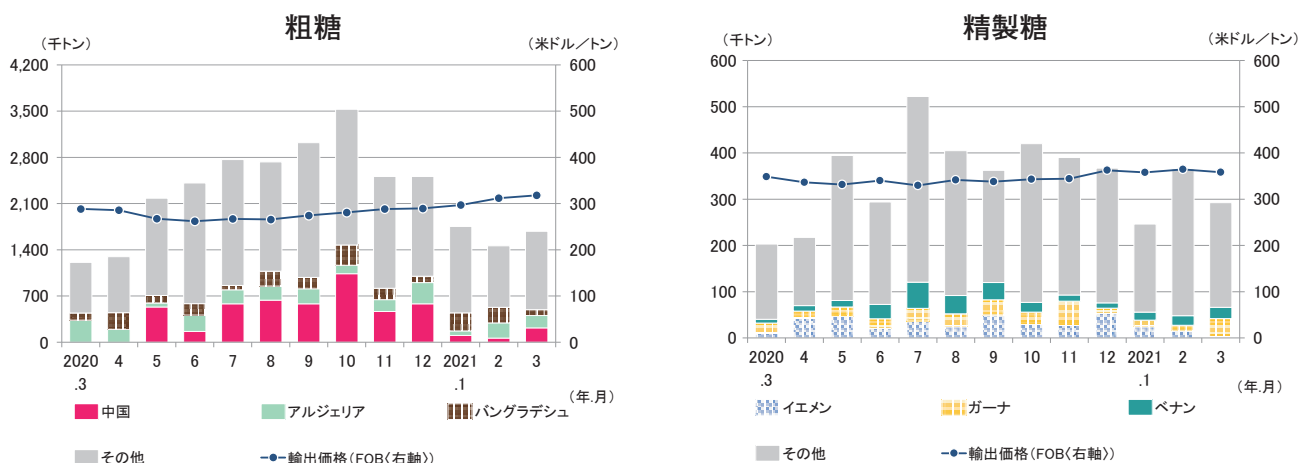
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,650	8,604	▲ 0.5%	
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,000	630,000	▲ 4.1%	
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,674	41,890	▲ 6.2%
	輸入量	3	2	3	3	0.0%
	消費量	10,635	10,812	11,321	11,325	0.0%
	輸出量	21,017	20,321	33,783	30,560	▲ 9.5%
	期末在庫量	239	913	485	493	1.6%
	期末在庫率	0.8	2.9	1.1	1.2	0.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：483万ha（前年度比4.1%増）

生産量：3億9463万トン（同6.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3256万トン（同10.6%増）

輸出量：822万トン（同0.8%減）

2020/21年度の砂糖生産量はかなりの程度増加するものの、輸出量はわずかに減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた前年度からの反動で、483万ヘクタール（前年度比4.1%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。ウツタル・プラデーシュ州で赤腐病（red rot）の被害が確認されているものの、マハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン

期（6～9月）における降雨が潤沢であったことから、サトウキビ生産量は3億9463万トン（同6.8%増）、砂糖生産量も3256万トン（同10.6%増）といずれもかなりの程度増加すると見込まれる。砂糖の国際価格が堅調に推移している状況の下、製糖業者は砂糖輸出を促進するとみられるが、コロナ禍におけるコンテナ不足などの物流の混乱による影響で輸出ペースが鈍化しており、輸出量は822万トン（同0.8%減）とわずかに減少すると見込まれる。

表3 インドの砂糖需給の推移

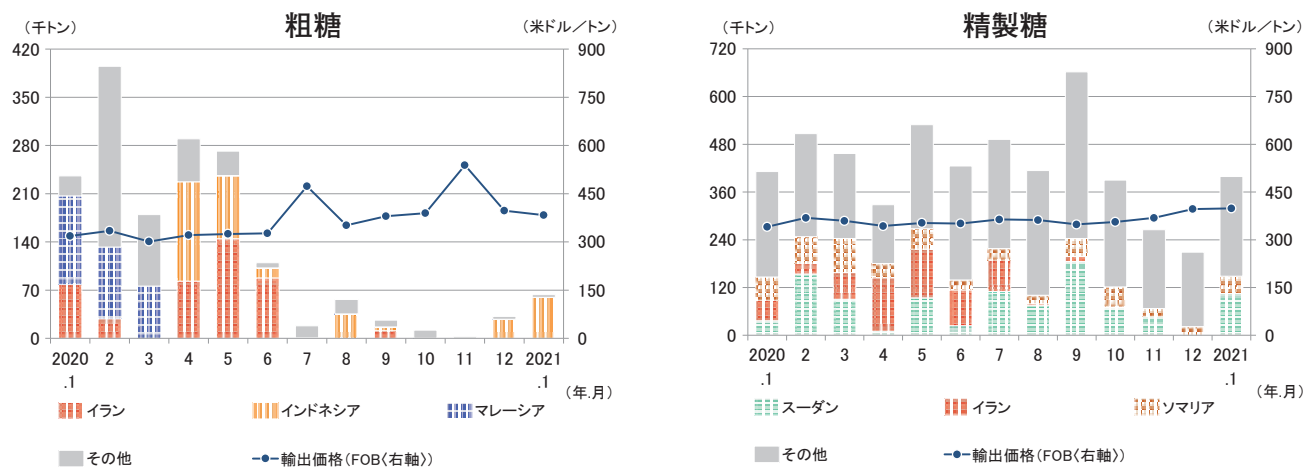
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (3月予測)	2020/21 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,642	4,731	4,831	4.1%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	369,637	393,379	394,633	6.8%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	32,887	32,563	10.6%
	輸入量	2,308	664	1,687	1,728	1,728	2.4%
	消費量	27,421	27,540	27,108	27,864	27,864	2.8%
	輸出量	2,360	5,483	8,288	7,296	8,224	▲ 0.8%
	期末在庫量	11,523	14,962	10,690	10,179	8,893	▲ 16.8%
	期末在庫率	38.7	45.3	30.2	29.0	24.6	5.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



中国

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比1.6%減）

生産量：7360万トン（同3.5%減）

【てん菜】

収穫面積：23万ha（同8.8%増）

生産量：1238万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1124万トン（同0.2%減）

輸入量：721万トン（同7.9%増）

2020/21年度の輸入量は、かなりの程度増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、雲南省では面積の増加が見られるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受けて、116万ヘクタール（前年度比1.6%減）とわずかに減少し、サトウキビ生産量も、7360万トン（同3.5%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加

に伴い、1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1124万トン（同0.2%減）とわずかに減少すると見込まれる。輸入量は、液糖輸入量の大幅な減少によって輸入糖の需要が高まり、721万トン（同7.9%増）とかなりの程度増加すると見込まれる^(注)。

(注) LMC Internationalによると、中国政府は液糖の輸入禁止を正式に発表していないものの、現在税関において液糖の通関手続きの遅滞が発生しており、輸入液糖の賞味期限切れなどの事態が発生するなど、事実上液糖輸入に制約がかかっている。

表4 中国の砂糖需給の推移

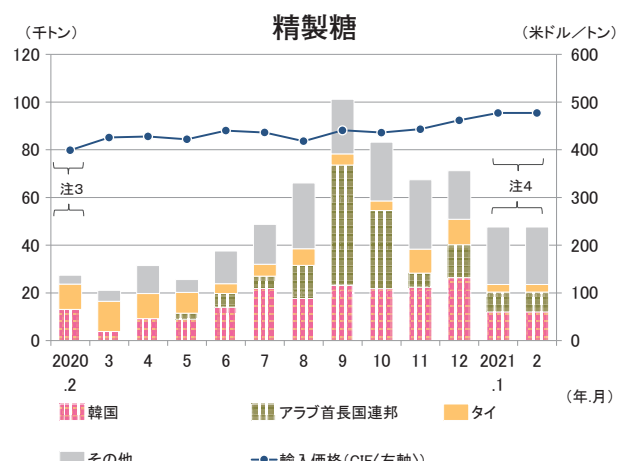
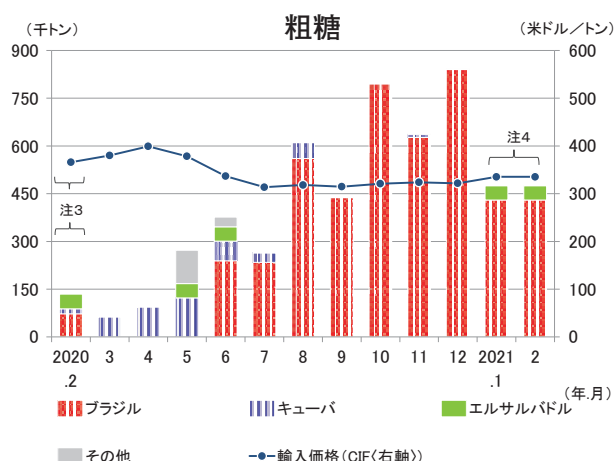
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (3月予測)	2020/21 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,157	1,157	▲1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	76,231	73,600	73,600	▲3.5%	
てん菜収穫面積	186	243	213	231	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	12,380	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,367	11,239	▲0.2%
	輸入量	6,033	5,053	6,685	7,108	7,212	7.9%
	消費量	16,414	16,522	16,414	16,849	16,849	2.6%
	輸出量	182	210	192	201	201	4.9%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,571	13,986	13,973	11.1%
	期末在庫率	67.9	67.1	75.7	82.0	82.0	6.2ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

注3：2020年2月の数値は、中国海関総署(日本の税関に相当する組織)が公表した1~2月の合計値を等分した。

注4：2021年1、2月の数値は、中国海関総署が公表した1~2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度(10月~翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：147万ha(前年度比2.9%減)

生産量：9913万トン(同9.9%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1515万トン(同10.6%減)

輸出量：125万トン(同12.8%減)

2020/21年度の輸出量は、かなり大きく減少する見込み

2020/21年度(10月~翌9月)のてん菜の収穫面積は147万ヘクタール(前年度比2.9%減)とわ

ずかに減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産量は、EUの主要てん菜生産国であるフランスで感染が広がる^{いおう}萎黄病の被害を受けて、9913万トン(同9.9%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。

てん菜生産量の落ち込みにより、砂糖生産量は1515万トン（同10.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖生産量の減少によって輸出余力が低下し、125万トン（同12.8%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

仏バイオテクノロジー企業、大手製糖企業とてん菜糖副産物の供給契約を締結

フランスのバイオテクノロジー企業AFYREN社は3月23日、EUの大手製糖企業Südzucker社と、てん菜糖副産物の供給に関する長期契約を締結したことを発表した。

AFYREN社は2012年に設立されたスタートアップ企業で、今回の契約により、調達するSüdzucker社のてん菜糖副産物（ビートパルプや糖みつ）を原料に、2022年上半期の本格操業を予定している有機酸製造工場^(注)において、7種類の有機

酸の生産を計画している。

今回の契約では、こうしたてん菜糖副産物そのものの付加価値を高める効果が期待できる他、通常は石油から製造される有機酸の原料として、食品副産物であるてん菜糖副産物を利用することで、食料供給に影響を与えることなく、資源を持続可能な方法で活用する事業を行うことができ、Südzucker社にとっては2050年までにカーボンニュートラル（温室効果ガスの実質排出量をゼロにすること）を目指す目標を達成することができるとしている。

(注) 有機酸とは炭素原子を含むカルボン酸で、酢酸、プロピオン酸、酪酸などがあり、食品添加物の他、化粧品や医薬品などの原料として幅広く使用されている。同工場は、フランスのドイツ国境付近に位置し、生産能力は年間1万6000トン。工場周辺にはSüdzucker社の製糖工場が複数存在し、てん菜糖副産物の安定的な供給が見込まれる状況にある。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

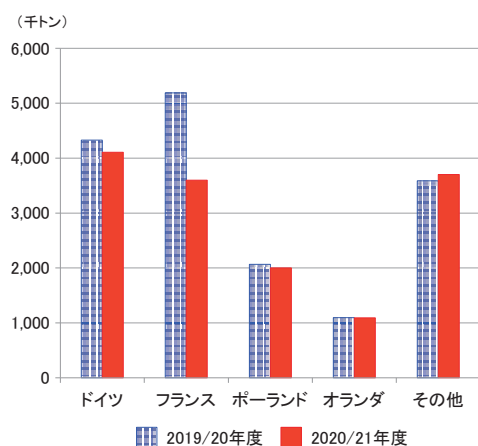
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (3月予測)	2020/21 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,474	1,474	▲ 2.9%	
てん菜生産量	130,930	104,224	110,038	99,160	99,134	▲ 9.9%	
砂糖	生産量	20,353	17,083	16,954	15,157	15,151	▲ 10.6%
	輸入量	1,566	2,349	2,230	2,577	1,959	▲ 12.2%
	消費量	17,451	17,546	17,099	17,074	16,830	▲ 1.6%
	輸出量	4,270	2,391	1,436	1,552	1,252	▲ 12.8%
	期末在庫量	2,212	1,709	2,357	1,322	1,385	▲ 41.3%
	期末在庫率	10.2	8.6	12.7	7.1	7.7	5.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

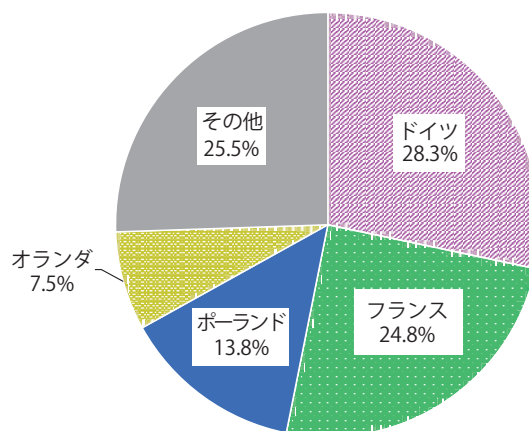
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年2月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2020/21年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2020/21年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2021年4月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.5%減）
生産量：3093万トン（同0.6%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：438万トン（前年度同）
輸出量：334万トン（前年度比0.8%減）

2021/22年度の砂糖生産量は、前年度並みの見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.5%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、大きな天候不順が発生していないことから、3093万トン（同0.6%減）とわずかな減

少が見込まれるとしているが、現地生産者からはラニーニャ現象による豪雨の発生など、ここ数カ月間の不安定な気候を懸念する声も上がっている。

砂糖生産量は、438万トン（前年度同）と前年度並みで推移すると見込まれる。輸出量は、334万トン（前年度比0.8%減）と、依然減少傾向が続くと見込まれている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	379	364	361	355	▲ 1.5%	
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,123	30,925	▲ 0.6%	
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,384	0.0%	
	輸入量	18	16	20	▲ 10.0%	
	消費量	1,057	1,056	1,036	2.5%	
	輸出量	3,562	3,449	3,364	▲ 0.8%	
	期末在庫量	958	763	767	771	0.6%
	期末在庫率	20.7	16.9	17.4	17.5	0.1ポイント増

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2021]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比18.8%減）

生産量：6666万トン（同11.0%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：784万トン（同11.0%減）

輸出量：478万トン（同41.4%減）

2020/21年度の輸出量は、前年度比4割減の見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、139万ヘクタール（前年度比18.8%減）と大幅に減少すると見込まれる（表7）。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、6666万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、焼き畑によるサトウキビ収穫量が減少し、原料の品質が向上したものの、サトウキビ生産量が落ち込んだことで、784万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は478万トン（同41.4%減）と大幅に減少すると見込まれる。

輸出競争力強化のため、高糖度粗糖のICUMSA色価を引き下げ

4月6日付けの現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）は、タイで生産される高糖度粗糖のICUMSA色価の最低値を1000から600へ引き下げるとの報告書を公表した。白糖グレード3の同色価についても、今後引き下げるとしている。ICUMSAは砂糖の純度や品質を色で判断するための国際基準で、数値が低いほど純度の高い砂糖であることを表す。このたびのOCSBによる色価引下げの背景は、タイの主要輸出先国であるインドネシアにおけるタイ産砂糖の競争力の強化とされている。インドネシアでは、従来、砂糖輸入量の70%近くをタイ産粗糖が占めていたが、2020年に同国において、粗糖輸入の際の色価最低基準が1200から600に引き下げられたことにより、インドやブラジルなどの競合国からの砂糖輸入量が増加していた。

OCSBは、今回の引き下げは発表当日から施行されるとしているが、2020/21年度分の砂糖生産は

既に終わりを迎えているため、次年度の砂糖の生産量や輸出量に影響を与えると市場関係者はみている。

表7 タイの砂糖需給の推移

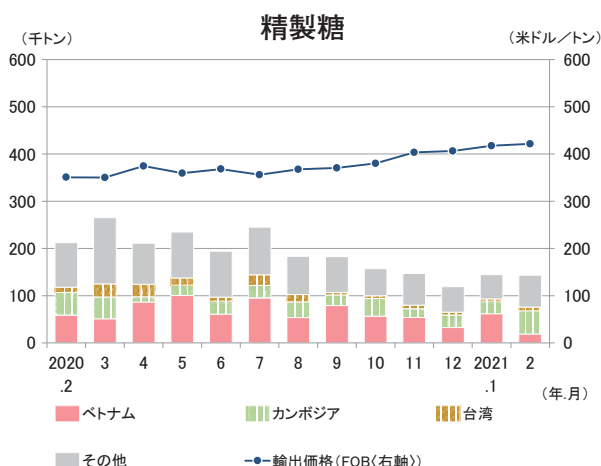
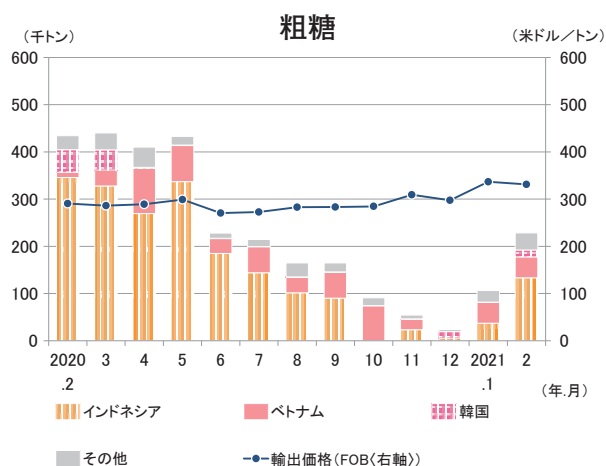
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (3月予測)	2020/21 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,714	1,392	1,392	▲ 18.8%	
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	65,000	66,659	▲ 11.0%	
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,562	7,837	▲ 11.0%
	輸入量	5	4	59	23	23	▲ 61.1%
	消費量	3,434	3,737	3,773	3,700	3,700	▲ 1.9%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	4,505	4,780	▲ 41.4%
	期末在庫量	6,289	7,899	4,830	4,211	4,211	▲ 12.8%
	期末在庫率	47.4	57.0	40.5	51.3	49.7	9.2ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。